

多くが脂肪  
肝を合併し  
ている「内  
臓脂肪型肥  
満の人は、  
感染症の重  
症化リスク



大」など、内臓脂肪と病気の関係を詳しく説明しています。また、内臓脂肪を減らす方法として「おかず食べダイエット」を提案し、糖質制限をベースとし、食事の量を減らすのではなく、おかずをしつかり食べるダイエットを行うことで、ストレスなくみるみる内臓脂肪が減っていくということを解説しています。ご興味のある方は、お手に取っていただければ幸いです。

今後も微力ながら糖質制限推進論者の一人として、本邦での糖質制限の普及に力を注いでいきたいと思います。

◆JA長野厚生連 長野松代総合病院

〒381-1231 長野県長野市松代町松代183  
TEL: 026-278-2031  
URL: <http://www.nagano-matsushiro.or.jp/>  
dept/051\_diet



提携医療機関便り

3

「糖質制限食との邂逅」

医療法人久康会 平田東九州病院  
副院長 田中 松平



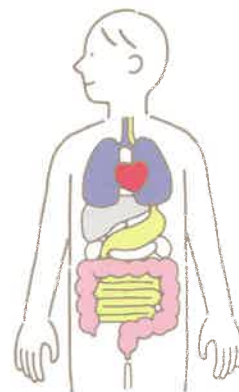
◆糖質制限食に出会う前

金沢大学で、心臓肺、血管、一般消化器外科と総合外科を習得できる第一外科に入局しました。当時は自家麻酔で手術をするのが当たり前だったので、1年目は麻酔科にも3ヶ月ローテートして全身麻酔を習っています。

WPW症候群を開心術で治す岩喬教授に憧れて入局したのですが、先生はあと3年で定年退官の年齢になられており、直接博士号論文の指導ができないため、私たちの学年は、基礎講座を含めて8人が大学院に進学できることになっていました。

基礎と臨床の橋渡しができる第一病理学の大学院に進学しました。そこで、組織診断、免疫染色、分子生物学手法であるPCR法を使って大腸がんのK-ras遺伝子の点突然変異を調べることに。3年後に予後調査をして、K

ras変異が大腸がんの予後を悪くしているということを英文雑誌に投稿しました。数年後に大腸がんにおけるK-ras変異のレビューの共同演者に選ばれています。この時に統計学的手法の勉強をさせてもらいました。人間のからだ



だが不思議でもおもしろく、「なぜ、どうして」が好きでした。臨床と並行して大学院の仕事ができたので、医師としての間口と基礎を深めてくれる貴重な時間でした。

認定医、専門医、指導医として一般消化器外科を究めるうちに、栄養・代謝の根本である食事法に関して頼るべき究極の食事法が見当たりませんでした。

その頃、信ぴょう性が高いとされていた食事法です。

「済陽(わたよう) 式がんを予防し、がんの再発を防ぐ食事療法8カ条」

▼手術・化学・放射線療法に加えて食事療法で、進行晩期がん患者156人の61.5%で、がんの消失、改善が認められた。

その要点として

- ① 限りなく無塩に
- ② 動物性タンパクと脂肪の制限